

あの日(廃線)から20年

三河線廃線区間

矢作川&渡船場跡



風速用発光信号機

矢作川----- 1

山線・矢作川----- 2

春夏秋冬----- 3

春----- 4

夏----- 10

秋----- 14

冬----- 20

枝下渡船場跡----- 24



三河広瀬側から撮る…平成 18 年 4 月 24 日…私にとっては貴重な 1 枚です。



矢作川

両枝橋の枝下方に「枝下の渡し場跡」があった。明治時代初めまでは橋を架ける技術もなく専ら渡し船で渡っていた。枝下の渡し場は、中山道の脇道として栄えた飯田街道は善光寺街道・参宮街道・塩の道中馬街道などと呼ばれ多くの旅人や商人が利用し賑わった。西枝下村と東枝下村間の渡し船は江戸時代の享保3年(1718)に運行され、昭和27年(1952)まで続いていた。

増水時の目印として、測り岩(量水岩)があり、この岩が水中に隠れると船留めにしたという。

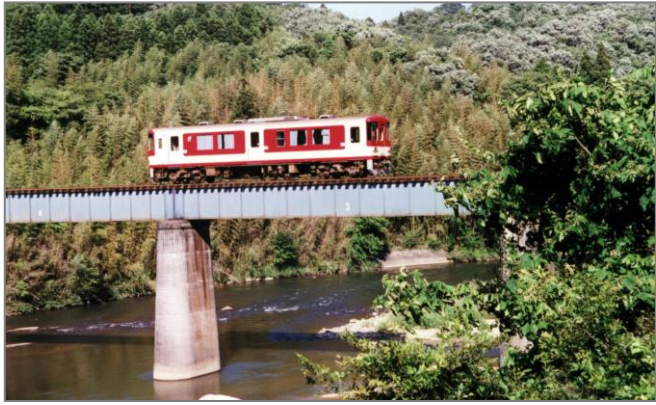
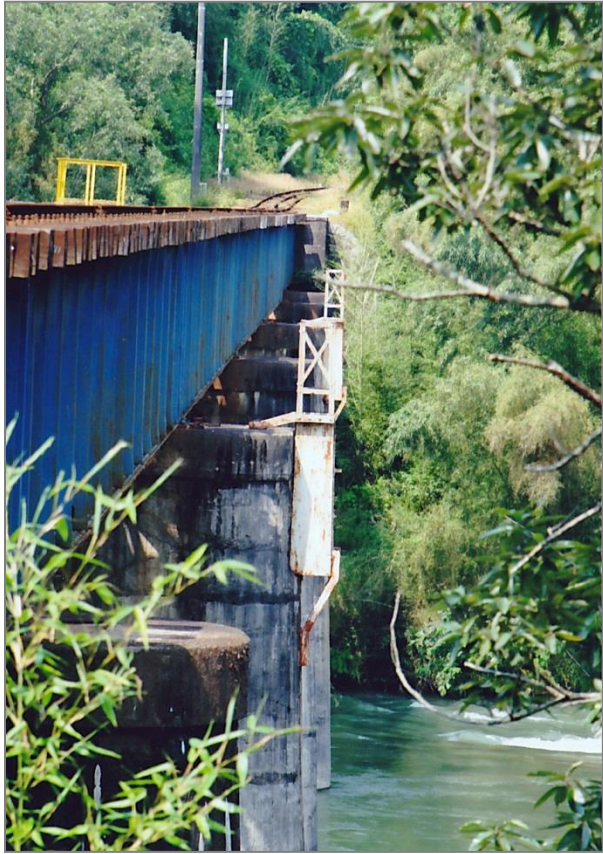
場所は枝下1号踏切を川辺に降りると渡船場跡がある。途中になぜか「菅江真澄」(江戸時代後期の旅行・紀行家。渥美郡牟田村出身(現・豊橋市)の歌碑がある。

“渡し場のあとに佇みややに澄む 冷たき流れに手を浸しみる”私の推測だが、この渡し場から信州へ旅立つとき、詠んだ句ではないかと思う？



山線・矢作川

山線で一番人気の写真スポット。橋梁の長さは133.5m。
橋梁下の岩場からシャッターを切る人が多い。







平成18年4月5日

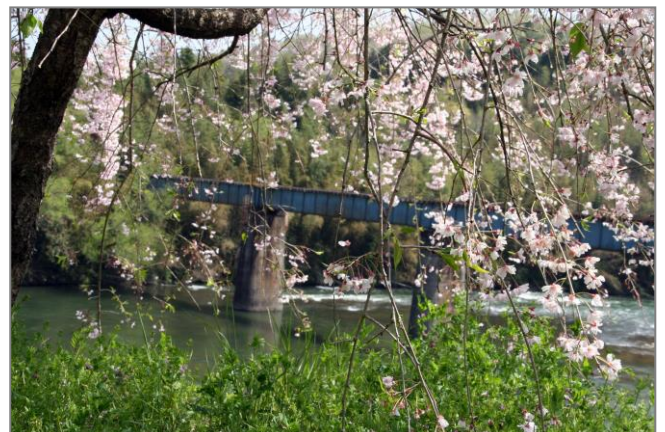


平成19年4月4日

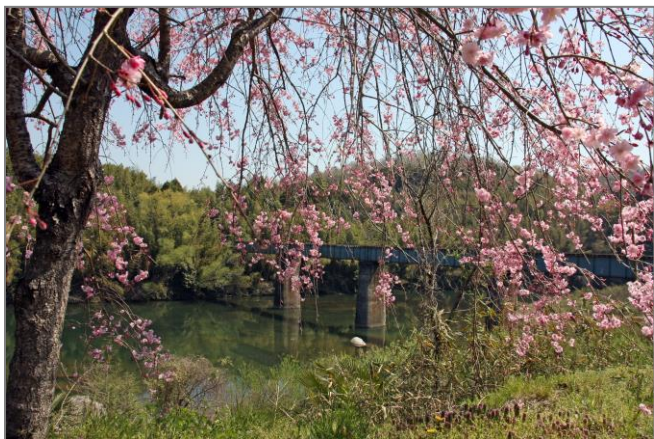
春



枝垂れ桜満開…平成19年4月17日



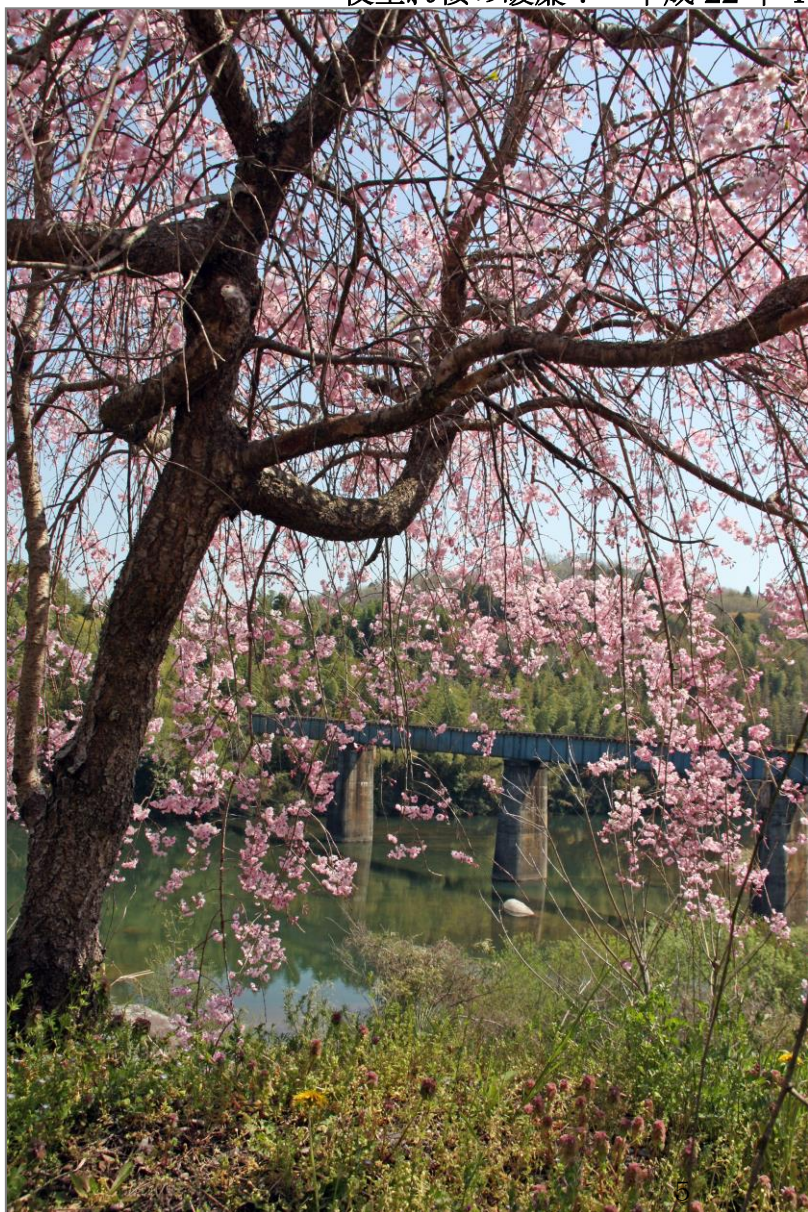
散り始めたれ桜…平成20年4月15日



平成 21 年 4 月 6 日

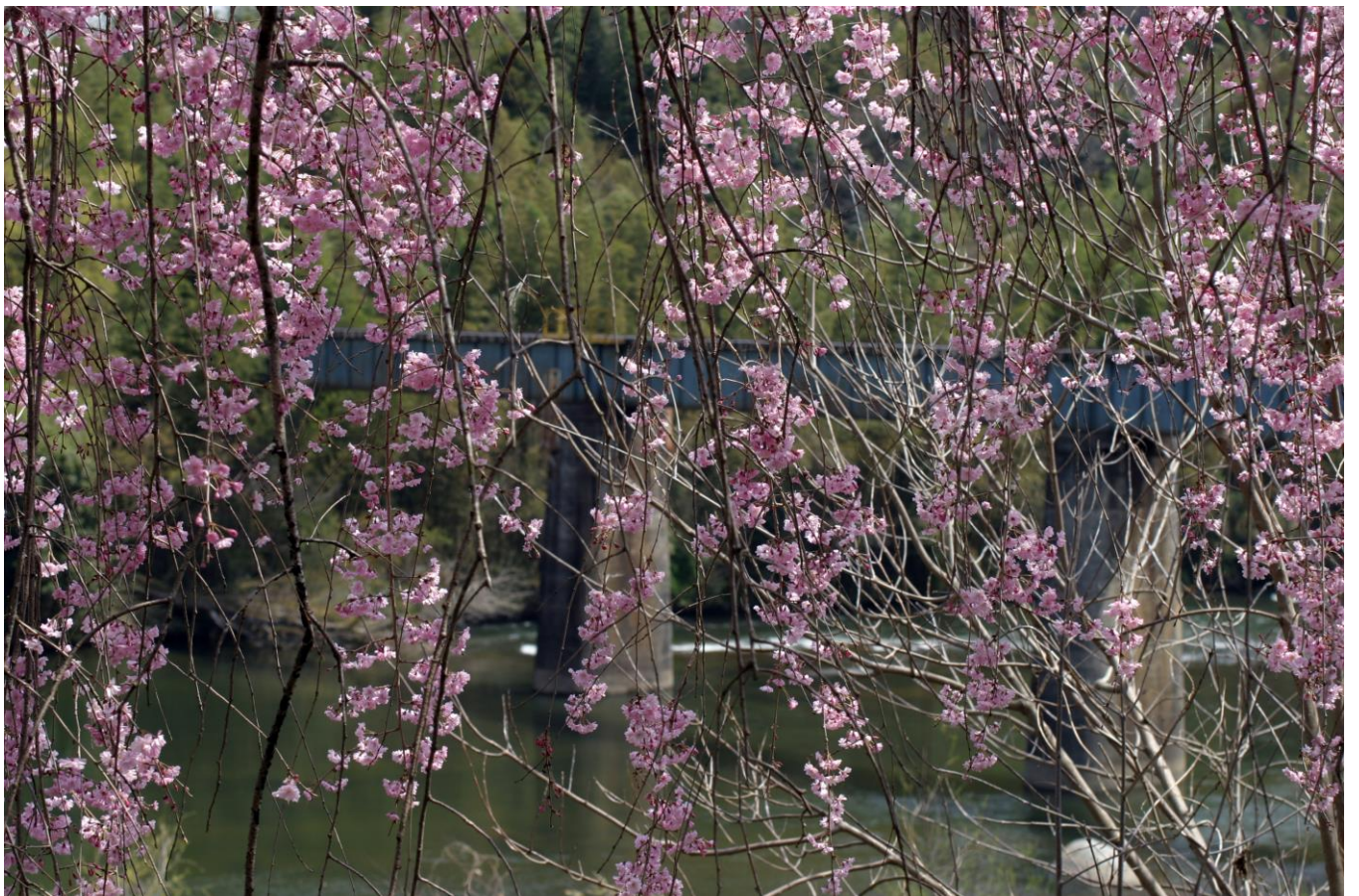
橋梁の右岸に 3 本、枝垂れ桜が植樹されていたが、
平成 23 年春、真ん中の桜が 1 本が枯れて…。

枝垂れ桜の暖簾？…平成 22 年 4 月 3 日



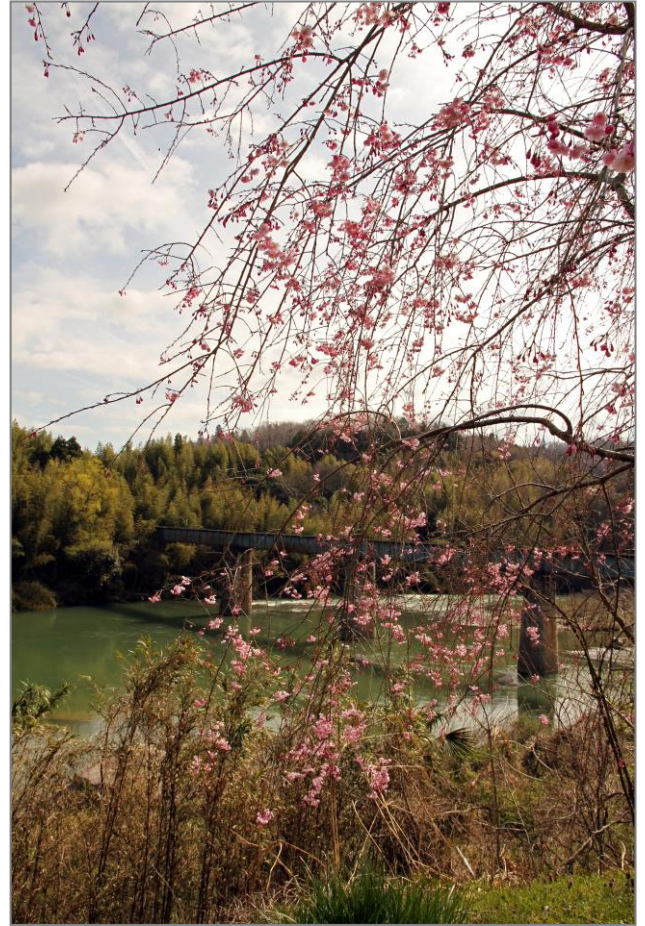


枝垂れ桜の暖簾いやカーテンかな？…平成 23 年 4 月 11 日





平成 24 年 4 月 12 日



平成 26 年 4 月 3 日





平成 28 年 4 月 6 日



平成 30 年 3 月 30 日



平成 30 年 3 月 30 日



矢作川の橋梁・枝垂れ桜に別れを告げる…理由は・草木に覆われ絵にならないから…令和 3 年 3 月 3 日



平成 17 年 8 月 28 日

夏



平成 18 年 7 月 27 日



平成 19 年 6 月 11 日



川面から吹き上げる心地よい風が頬に(左岸側から撮る)…平成 19 年 6 月 11 日

川は生きている(台風一過「4号」の贈り物→濁流)…平成 19 年 7 月 16 日





平成 19 年 6 月 11 日



平成 19 年 8 月 9 日



平成 20 年 5 月 21 日



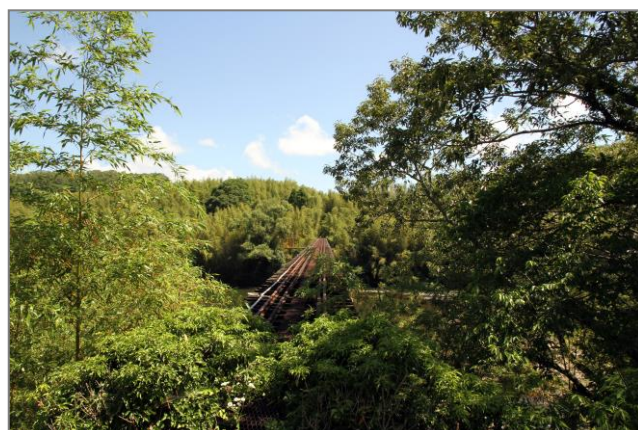
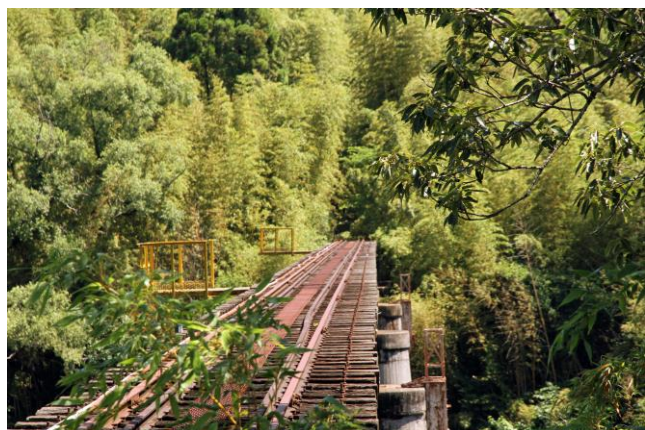
平成 20 年 7 月 5 日



平成 21 年 8 月 11 日



平成 23 年 7 月 11 日



平成 25 年 6 月 16 日



平成 17 年 12 月 1 日



平成 21 年 11 月 8 日

秋



平成 20 年 11 月 12 日



平成 23 年 11 月 16 日



平成 20 年 11 月 12 日



平成 21 年 11 月 8 日



山々の紅葉に包まれた橋梁…平成 21 年 11 月 27 日

山も川も秋色に…平成 21 年 11 月 28 日





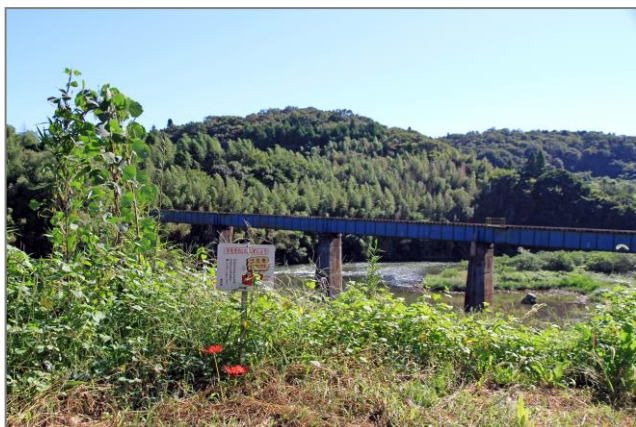
平成 20 年 11 月 26 日



河川敷のススキ…平成 21 年 11 月 18 日



河畔の秋…平成 21 年 11 月 3 日



平成 22 年 9 月 25 日



平成 23 年 12 月 4 日



平成 21 年 11 月 28 日





平成 23 年 12 月 4 日



平成 24 年 11 月 18 日



平成 23 年 12 月 4 日



平成 21 年 11 月 27 日



平成 23 年 11 月 16 日



平成 19 年 2 月 26 日



平成 20 年 2 月 10 日

冬



平成 23 年 1 月 16 日



平成 19 年 2 月 26 日



平成 20 年 2 月 10 日



平成 23 年 1 月 17 日



平成 23 年 1 月 16 日



平成 23 年 1 月 17 日



平成 24 年 2 月 2 日





枝垂れ桜 3 本中 1 本枯れ果てて…平成 24 年 2 月 2 日

枝 下 渡 船 場 跡



平成 18 年 11 月 28 日



人や牛馬の喉を潤した井戸跡(枝下 1 号踏切下右側)



平成 18 年 11 月 28 日

左下の台座は、対岸に張ったワイヤーを固定するための石製の施設で、ワイヤーに滑車を付け、更にロープで船に繋ぎ、船が流されないよう工夫されていた。台座の近くに井戸があり街道を往来する人や牛馬の喉を潤したという。当時の井戸は朽ち果てているが、それらしき跡はある。



平成 20 年 4 月 2 日



平成 20 年 4 月 2 日



平成 21 年 3 月 30 日



川中に半円と長方形を組み合わせたような岩が見える。この岩の大きい岩を「はかり岩」と呼び、「はかり岩」が水中に隠れると増水の印で、舟留めとなったという。



平成 26 年 1 月 31 日

渡船場から河岸を歩き橋梁に近づく、膝まで浸かればもっと進めるが真冬のためここでストップ。



平成 29 年 4 月 9 日





令和3年3月29日



令和2年4月4日



令和3年3月29日



令和5年11月21日

